

## 御 挨拶

常任指揮者 佐々木 基之

もう4回目の定演を迎えることになりました。20余名の新入生も、夏合宿には先輩の響きの中に溶け合って、定演の曲目も大体まとまり、私も楽しい5日間を過しました。

17世紀の終りに平均律の有鍵楽器が出来て、人間がその狂わせてある楽器に合せてドレミファと歌うようになり、和音感を破壊されてしまいましたが、バレストリーナの時代の人達に歌えば自然に調和する耳をもっていたようです。

梨大合唱団も分離唱によって中世紀の耳を回復し、指揮者なしでも聴き合ってミサ・プレヴィスを楽しみながら歌えるようになりました。私は前に立って皆様と共に聴かせてもらいます。

この合唱団をまかせて頂いたことは私の生涯のよろこびであり、感謝の心が胸一杯に溢れんばかりです。有難うございました。

## 合唱のころ

合唱団顧問

合唱の顧問を引き受けるようになってから2度目の定期演奏会を迎えました。この間、忙しさのあまり練習にもあまり顔を出すことが出来ず、団員の諸君には申しわけなく思っています。ついさきごろ、久しぶりに練習を聞く機会を得ましたが、日頃の私の怠慢などには関係なく、定演にむけての十分な練習の成果を発揮してくれて大いに安心をいたしました。団員の中には、大学へ入ってはじめて合唱を経験した人も少なくないにもかかわらず、わずか数ヶ月の間にこれだけのハーモニーを作りあげることが出来るのは、互に聞き合って唱うという合唱の心が基本的にあるためだと改めて感心した次第です。

今年の定演には、従来からのパトリーである小曲集に加えてミサ曲を発表することになっておりますが、どのように消化して歌いこなすことが出来るか楽しみにしています。

### 山梨大学合唱団第四回東京公演

指揮 佐々木 基之

1977年3月11日(金) PM 7:00

新宿西口 朝日生命ホール